

2009年度

科目名	演習 I		
担当教員	高橋 圭一		
配当	日文3	コード	33070
開期	通年	講時	水曜日3限
		単位数	4
授業テーマ	江戸の漫画に注釈を施す。		
目的と概要	江戸中期の戯作を代表する黄表紙の中からいくつかの作品を選び、全員で少しずつ分担を決めて読み進める輪読(りんどく)形式で授業を行う。その中で江戸文学・江戸時代に関する様々な知識を会得する。		
成績評価法	注釈の出来具合が最重要であるが、平常点も加算する。		
テキスト	授業の最初に指定する。発表者がコピーし、プリントを用意する。作品によって異なる。		
参考書	授業中、随時紹介する。『江戸語の辞典』(講談社学術文庫)は持っておくことが望ましい。		
履修に当たっての注意・助言	他の受講者の発表と、それに対するコメントをよく聞いておくこと。		
講義計画			
<p>第1回 講義 草双紙(黄表紙はその一時期の作品群を指す名称)の歴史。 第2回 続き。 第3回 続き。 第4回 講義 黄表紙の代表的な作家とその作品。 第5回 続き。 第6回 講義 注釈とはどのような営為か。 第7回 模範発表、工具書の紹介。 第8回 続き。 第9回 受講生の注釈発表、全員による質疑応答。その1、黄表紙時代の幕開け『金々先生栄華夢』(きんきん せんせい いえいがのゆめ)。 第10回 続き。 第11回 続き。 第12回 続き。 第13回 続き。 第14回 続き。 第15回 歌舞伎をビデオかDVDで鑑賞する。戯作の注釈には歌舞伎の知識が必須である。 第16回 受講生の発表、質疑応答。その2、カチカチ山のパロディ『親敵討腹鼓』(おやのかたきうてやはらつ づみ)。 第17回 続き。 第18回 続き。 第19回 続き。 第20回 続き。 第21回 続き。 第22回 その3、黄表紙の最高傑作『江戸生艶気樺焼』(えどうまれうわきのかばやき)。 第23回 続き。 第24回 続き。 第25回 続き。 第26回 続き。 第27回 続き。 第28回 続き。 第29回 続き。 第30回 図書館で黄表紙のマイクロフィルムを閲覧する。</p>			